第 82 回 株式会社 USEN 放送番組審議会 議事録

■開催日時

2024 年 10 月 10 日(木)16:00～

■開催場所

東京都品川区上大崎 3-1-1 USEN 本社

■出席者

品田 英雄 委員長

富澤 一誠 委員

長谷川 演 委員

和合 治久 委員

野崎 良太 委員

■局側出席者

代表取締役社長 貴舩 靖彦

エンターテインメント事業部長 山下 光儀

エンターテインメント事業部制作 1 部長 村田 徹

エンターテインメント事業部制作 1 部長制作課長 小島 万奈

エンターテインメント事業部制作 1 部長制作課 北村 魁知

エンターテインメント事業部制作 1 部長制作課 河合 芳樹

【番組審議会事務局:森角、北村】

議事内容

1. 会社動向、放送事業動向についての報告

(1)第 60 期第 4 四半期経営成績について

店舗サービス事業の売上・営業利益は、59 期比で伸長した。

(2) 10 月番組改編について

2024 年 10 月 1 日に、番組改編を実施した。BGM としての選びやすさを重視したチャンネル名の改名や、AI BGM

の機能（店舗内装×音楽ジャンルを掛け合わせた条件で AI 選曲）を活用した新チャンネル（6ch）を新設した。

(3)プロ野球応援歌の放送について

あらゆる業種での応援セール用 BGM としてご利用頂くため、2024 年プロ野球クライマックスシリーズ＆日本シリーズに合わせた球団の応援歌を放送する臨時放送対応を実施した。

(4)ハロウィン BGM の放送について

日本でも秋の風物詩「ハロウィン」を盛り上げる BGM としてご利用頂くため、「ハロウィン・スタンダード（Vo/Inst）」、「ハロウィン・キッズ・パーティ」、「ハロウィン BGM」等、ハロウィン向け BGM を放送した。

(5)追悼番組の放送について

「K-07 臨時特集 2」」にて、9 月 9 日～10 月 8 日まで、9 月 5 日に逝去されたセルジオ・メンデス氏に追悼の意を表し、「セルジオ・メンデス 追悼特別番組」」を放送した。

2. 審議課題

「利用シーン」×「番組」

3. 【対象番組】

■C-79 アコースティック 洋楽

■J-25 ヒーリング CAFE

4. 審議

【放送局】

第 61 期は前期に引き続き、「利用シーン」×「番組」を審議テーマとし、今回は「ナチュラルな内装に向けた BGM」として「C-79 アコースティック 洋楽」、「J-25 ヒーリング CAFE」の 2 番組を審議頂きたい。まずは、「C-79 アコースティック 洋楽」からご意見を伺いたい。

【審議委員】

「アコースティック 洋楽」は、聴きたいと思わせる番組名で、楽しみながら飽きずに聴く事が出来た。一方で、部屋の中等の狭い空間で聴くと、楽曲毎の緩急に振れ幅を感じた。振れ幅がある事で良い面もあるが、振れ幅が大きくなる程 BGM として空間に馴染まなくなってしまうだろう。私は普段インテリアデザインの仕事をしているが、この空間に入った人の感情はどの様に変化するのか、どの様に変化させるべきかを考えてデザインをしている。音楽には抵抗なく感情を変化させる力があるが、それを踏まえて「ナチュラル」、「内装」という言葉をポイントに聴くと、楽曲毎の振れ幅で感情が変わってしまうという点に引っ掛かった。アコースティックだが、テンポや楽器の数が違う楽曲、小さく繊細に聴こえる楽曲と壮大な楽曲が混在しており、その様な違いからも感情の変化を感じた。

また、10 年前の楽曲を削除する事でトレンド感の演出を目指している様だが、単純に古い楽曲を削除することがトレンド感の演出に繋がる訳ではないだろう。近年は新しい音楽が頻繁に登場してシーンの変化も速い時代であり、1 年前の楽曲の方が何度も聴いているため古く感じる事もある。ファッションにも様々なトレンドがあるが、古い物がまた時代性にあわせてアップデートされて現れる様に、音楽も古いからトレンドではないと言い切ってしまうのは危険だ。

利用シーンとしては、ナチュラルな音楽はあらゆる場所に馴染むため、キャンプ施設や自然食品を取り扱う場所だけではなく、一般的なアパレル店やレストラン、バーにも合う様な幅広さを感じた。

【審議委員】
利用シーンを設定する場合、その場所の雰囲気や環境、客層を想定した上で、本当にその場所に合っているのかを意識して選曲する事が重要だと考える。例えば美容室では気持ち良く利用して貰えるか、アパレル店では楽しく買い物が出来る雰囲気か、カフェでは楽しく歓談が出来て有意義な時間を過ごせるかという事だ。場所といっても個々の店舗によって雰囲気は異なるため、一概に全ての場所に当てはまるという事はないが、その様な観点で聴いた。更にキーワードとして、番組コンセプトの中から「爽やかさ」、「温もり」、「優しさ」、「心地良さ」、そして「トレンド感」がそれぞれの利用シーンに合っているかという点に着目した。サンプルの楽曲は、大きく 3 つの性質に分かれているように感じた。
一つ目は、テンポが非常に速く、活気が感じられるグループだ。このグループの楽曲からは爽やかさは感じられなかった。温もりはそれなりに感じる事が出来たが、強さが目立ち優しさが損なわれてしまう楽曲が目立ったので、優しさもあまり感じられなかった。アレグレット、或いはアレグロの様なやや速いテンポの楽曲が多く活気がありすぎるため、このグループの楽曲からは爽やかさや温もり、優しさを感じられなかったのだと思う。利用シーンとしてはアパレル店の他に、スポーツセンターやジムにも合うだろう。二つ目のグループはテンポが程良く、優しさや心地良さも感じられ、カフェや美容室、アパレル店にも合うと思われた。三つ目のグループもテンポが程良く、二つ目のグループよりもさらに爽やかなテンポになっていて、より一層温もりや優しさを感じられ、心地良さやトレンド感もあり、利用想定シーンに最も合っていると感じた。

【審議委員】
私はピアノを弾くため、アコースティックな洋楽と聞いてまずピアノをイメージしたが、「C-79　アコースティック　洋楽」は全てギターで構成されているという点に引っ掛かった。ギターのみではナチュラルな内装の美容室やアパレル店、カフェの中でも非常に合う店舗と全く合わない店舗があるだろう。サンプルには、やや強く聴こえる楽曲や、この楽曲はアコースティックなのかと疑問に感じるものもあったが、ギターで統一するのであれば、ホセ・ジェイムズの様なアーティストが加わる事で柔らかな雰囲気になるのではないか。
トレンド感について、私は DJ 活動をしているが、特に 1 年前にリリースされた楽曲は慎重に選曲するようにしている。何故かというと、1～3　年前の楽曲を掛けると、トレンドの曲をチェックしていないように見られ、ダサく聴こえる事があるからだ。20 年程経過すると浄化されるのか、突然流せる様になったりする。トレンド感の演出は、特に USEN の場合は幅広い層の顧客を対象にするので難しいとは思うが、どのように絞り込むかを慎重に判断する事が重要だ。逆に 60～70 年代の楽曲の方が今っぽく聴こえる事もあるし、必ずしも直近 10 年間で発売されたものがトレンドを作るという事ではないだろう。

【審議委員】
スポーツと芸術は違う。100m 走で 9 秒 9 の人が 9 秒 8 の人に勝てないのがスポーツで、絶対的な価値観がある。一方で、私が良いと感じたものをそうではないと感じる人が居る様に、人の感性によって評価が異なるのが音楽だ。番組制作においては基本的には顧客のニーズ、つまり出口から入って入り口を決める事が重要だが、どの入り口に行くかは制作者の感性によって異なる。私は「C-79　アコースティック　洋楽」を聴いた時に、ヴォーカルが強い楽曲が突然流れると雰囲気が壊れると感じた。これを良いと感じる人も居れば、そうではないと感じる人も居るため結論を出す事は難しい。あくまでも制作者の感性が重要になるが、その中に様々な人の嗜好を取り入れて探っていく事が、出口から入り口に向かう時には必要になると思う。私は、男性ヴォーカルは強すぎると雰囲気が壊れるが、ソフトな歌声は良いと感じた。これは一意見であり、他の人はまた違った感想を持つかも知れない。この様な他者の意見も取り入れて、良いところをとって自分なりのものにしていく事が番組制作においては重要だろう。

【審議委員】
楽曲毎に良し悪しがあり、それが塊になった選曲が、実際にお店の中で展開された時にどの様になるのかを意識して聴いたところ、第一印象は、悪くないが戸惑うというものだった。何故かというと、「アコースティック 洋楽」と聞いた時に、ジェイムス・テイラーの様な、生楽器を使った爽やかで優しい 70 年代のフォークソングやエクストリームの「モア・ザン・ワーズ」、90 年代の MTV アンプラグドの様なものを想像したからだ。「C-79 アコースティック 洋楽」は、ビヨンセが選ばれており、想像より強さを感じた。しかしよく聴くとコンセプト通りアップテンポで活気があり、現代風の選曲をするとこうなるのかと思った。後半は想像していたアコースティックに近付いたが、カントリー・ミュージックはアコースティックではないと感じた。カントリー・ミュージックの温もりや優しさは「C-79 アコースティック 洋楽」のアコースティックとは異なるだろう。選曲自体は良く出来ている。美容室やカフェでの利用を想定している様だが、アップテンポで力強さがあるため、アウトドアショップにも合うと感じた。アコースティックという言葉の捉え方が世代毎に異なるのだろうが、アコースティックを強調すると、時代を超え、よりスローテンポになるのではないかと想像していた中で、今流行っている打ち込み系ではない生音の選曲がなされている「C-79 アコースティック 洋楽」を聴いた時に違和感を覚えたというのが正直な感想だ。「C-79 アコースティック 洋楽」を様々な人にお薦めする中で、お店の方やお客様がどの様に捉えているのかという点が気になった。

【放送局】
選曲されている楽曲の振れ幅について大きく 3 つの観点でご意見を頂いた。すなわち、ヴォーカルやドラムのキックなどの「強弱による振れ幅」、カントリー・ミュージックはアコースティックではないとご意見を頂いた様な「ジャンルの振れ幅」、そして「楽器編成の振れ幅」である。この 3 点をどの様に整理するか、そしてトレンドをどう捉えるかという事がこの番組をより良くするためのキーポイントだと感じた。楽器編成に関しては、ギターのみしか選曲されていないのはどうかというご指摘を頂いたが、ピアノが加わる事で振れ幅が広がる。当初はピアノ作品も選曲していたが、お客様がアコースティックと聞いて想像するのはギターだろうという意見があり、今はギターで統一している。他者の意見も取り入れながら自分なりのものを作っていくことが肝要であるというご意見も頂いたが、音の強弱やテンポ感、ジャンル、楽器構成の振れ幅、そしてトレンド感に関しては頂いたご意見を基に改善したい。

【審議委員】
男性ヴォーカルと女性ヴォーカルという振れ幅に関してはどうだろうか。

【放送局】
お客様から、バランスよく織り交ぜて欲しいというご要望を頂く事が多いため、声質をより意識して選曲したい。

【審議委員】
他の委員も述べていたが、アコースティックと聞くと、ジェイムス・テイラーやキャット・スティーヴンスを想像する。

【放送局】
トレンドの考え方だろう。70 年代の作品がトレンド感の演出に繋がるという点は承知している。その様な楽曲をあえて選曲するのか、それとも最新という事に拘るのかという点は試行錯誤が必要だろう。

【審議委員】
昔、それまでアコースティック・ギターでフォークソングを演奏していたボブ・ディランや吉田拓郎がエレキ・ギターで演奏した時、“帰れコール”が起きた。あれは結局アコースティックに対して、エレキは敵対する存在だったという事だ。だからこそボブ・ディランはザ・バンドを、岡林信康ははっぴいえんどをバック・バンドに付け、エレクトリック・サウンドをフォークと融合させたフォーク・ロックへ転向した。バックに他の楽器を付けず、アコースティック・ギターだけの方がアコースティックっぽいという印象を受けるが、今のシーンではもう関係ないのだろうか

【審議委員】
私はあまり関係ないと思う。

【審議委員】
なるほど。では、アコースティックと聞いてまず思い浮かぶのはアコースティック・ギターではあるが、それだけに拘ったり、昔の楽曲の方がトレンドに感じるという感覚はそれこそトレンドとして過去のものという事かも知れない。

【放送局】
トレンドは回るものだ。曲も単純に１年前のものより昔の楽曲の方がトレンドに感じるかもしれないという事も有るが、もちろん古いから良いということではないので、試行錯誤する必要が有ると思う。

【審議委員】
私の場合、アコースティックと聞くと、単純に電気を通していない生の楽器の演奏をイメージする。この番組はもう少し柔らかい印象の番組かと思って聴いたので、「アコースティック 洋楽」という番組名でこの番組を聴くとびっくりする人が居るのではないかと思う。漠然とアメリカンな印象を受けたので、そういう雰囲気の店舗には非常に合うのではないか。
ユーザー的な観点で言うと、ネーミングは重要だと思う。運営しているカフェの BGM に USEN を使っているが、番組名を見て実際に流してみるとイメージと違うこともあり、BGM を選ぶのに結構時間を費やしてしまう。「C-79 アコースティック洋楽」も、予想とは全く違う曲が流れたので、今時の洋楽のアコースティックはこういう感じなのかと思った。

【審議委員】
続いて、「J-25 ヒーリング CAFE」について意見を述べたい。
「J-25 ヒーリング CAFE」は、個人的に好きなジャンルだと思い、楽しみに聴かせてもらった。コンセプトを踏まえて聴くと、確かにコンセプト通りにまとまっていて、落ち着いた中に跳ねるリズムや楽しさが感じられた。シーンとしては“落ち着いた”というよりも、ちょっと楽しそうなカフェやカジュアルなシーンに合うと思うので、想定するシーンよりも幅広いシーンに合うだろう。
ただ、「J-25 ヒーリング CAFE」も番組名と内容にギャップを感じる。“ヒーリング”には、見えない力・見えないメロディーで癒すという意味が有ると思うが、「J-25 ヒーリング CAFE」ではリラックス出来ず、癒されない曲も流れた。“ヒーリング”に“カフェ”を組み合わせた番組名であれば、“ヒーリング”だけではない今の内容でも良いという意図で“カフェ”を付けたのだろうかとも思った。

【審議委員】

私は、想定されている利用シーンの雰囲気に合っているかどうかという観点で聴いた。まずカフェではゆったりくつろいで談話出来るか、オフィスでは集中して仕事に励み、ストレスが溜まらない雰囲気を醸し出せるか、休憩室では飽きずにくつろげる憩いの場としての雰囲気を醸し出せるか、そしてペット・ショップでは動物も人も穏やかに過ごせるか、それぞれの場所に自分が身を置いた時にどう感じるかを考えた。実際に聴いてみて、この番組はナチュラルな音の響きと心地良いリズム、程良いテンポ感をコンセプトとして選曲されていて、それが結果としてストレスを緩和するように感じた。自律神経学的には副交感神経のスイッチが入るということだ。例えば、オフィスで仕事をしていると交感神経が優位で活発な心身の状態になるが、交感神経ばかりが優位になっている状態が続くのは望ましくない。そこで副交感神経にスイッチが入ると安静状態に導かれて、ストレスの緩和に繋がる。副交感神経に働きかけるためには周波数や1/fの揺らぎが重要で、楽器の影響が大きいと考えられる。周波数については倍音がよく出る楽器が良く、木管楽器の様な揺らぎがよく出る楽器も良いだろう。サンプルでは半分程は想定する利用シーンに合っていたと思うが、中には合わないと感じる曲もあった。途中でギターを弾く音が強い曲やテンポが速い曲があり、心地良さが壊れてしまったような気がしたので、そういった曲は除いた方が心身を安静に導いてくれるのではないかと思う。番組全体として考えると、ストレスを緩和する事を目指す場合は、テンポは程良い速さ、すなわちモデラート位の速さの楽曲で、軽やかさや優美さを持つこと、さらに先述した副交感神経にスイッチを入れることが期待できる楽器で演奏されている事も考慮すると更に良い番組になるのではないかと思う。
また、「ヒーリング CAFE」という番組名では、カフェだけに向いた番組という印象を抱くのではないか。選曲されているのは殆どアコースティックの楽曲なので、「アコースティックのヒーリング」の様なカフェと限定しない番組名の方が良いのではないかと感じた。

【審議委員】
サンプルは比較的好きな曲が多いが、日本のアーティストの楽曲ばかりなのが気になった。日本人のアーティストだと、ジャズ風になっていてもどうしても和のメロディーになってしまう。それが悪いという事ではないが、なぜ日本人のアーティストで揃えたのかなとは思った。
ヒーリングというジャンルはとても難しいジャンルだと思う。人それぞれで癒される音楽は恐らく異なり、私が癒されると感じる曲でも、隣に居る人がそれを心地良いと思っているとは限らない。この番組は「ヒーリング CAFE」とは違う番組名にすれば、それ以外は何の問題も無いと思う。カフェと言っても幅広く、「J-25 ヒーリング CAFE」が合うカフェもあれば、合わないカフェもあると思うので、番組名に「カフェ」と付けるのは難しい。この選曲なのであれば、例えば「日本のアーティストが作った癒しの音楽」という様な、選曲の特色が分かる番組名にした方が良いのではないか。やはり、番組名は重要だろう。

【審議委員】
「J-25 ヒーリング CAFE」は、ヒーリング・ミュージックでは物足りないというお客様にご提案しやすいチャンネルとして選曲を行っているという事だが、物足りないというのはお客様のどういうご意見があったのだろうか。

【放送局】
ヒーリング・ミュージックとなると、あまりに静かすぎる楽曲や、穏やかなゆったりした楽曲が多いというご意見を頂いた。この番組では従来の番組と差別化を図る為に、メロディーの後ろにリズムが乗っている楽曲や軽快さがある楽曲を織り交ぜた構成になっている。

【審議委員】
2021 年 4 月に「ペット用ヒーリング」から「ヒーリング CAFE」に改名したという事だが、改名前より評判は良いのだろうか。

【放送局】
評判は良くなっている。ペット関連以外にも提案しやすくなり、改名前は使われていなかったカフェチェーンやファミレスチェーン、スーパー等でも利用されるようになっている。

【審議委員】
サンプルはアーティストを調べながら聴いたが、ギターやピアノ、ハープ等様々な演奏の楽曲が選曲されていた。中でもメロディーが有る楽曲は心地良く、そのアーティストが長く活動しているというのも納得出来た。他にもたくさん良いアーティストが居ると思うので、選曲範囲を広げてみるのはどうだろうか。一方、“ヒーリング”はジャンルとしてはあるが、人それぞれ頭の中にあるものは違うと思う。我々は選曲を聴いて、自由に意見を述べているだけだ。ディレクターの中でヒーリングとはこういう事だと決めて、自信を持って、それに合った楽曲を選曲する方が面白い選曲が出来て、制作の仕方としては良いのではないだろうか。

【審議委員】
「J-25 ヒーリング CAFE」を聴いてみて、気持ちとしてはうきうきする効果があると思った。メロディーとテンポがあり、ゆったりとした楽曲に限定しないというコンセプト通りの選曲になっていると納得した。
一方で、番組名とは少しずれがあると感じた。つまり、“ヒーリング”はとても強い言葉で期待度が高く、セールス的には使いやすいがために、実際に番組を聴いた時に少し選曲内容とずれを感じたという事だ。30 年前にヒーリング・ミュージックが広がった時は、波の音や風の音、雨の音等の環境音やアンビエント・ミュージックの事で、スピリチュアルで内省的、そして静かな音楽だった。「J-25 ヒーリング CAFE」はうきうきする番組になっていて、これが本当に癒し・ヒーリングなのかという疑問を抱いた。癒されている時はどちらかと言うと無口になるだろうが、この番組はむしろ話したくなる。ヒーリングのカフェは多分もっと静かで黙って癒されるイメージが強かったのに対して、この番組はファミレスチェーンで利用されているというのも納得だ。“ヒーリング”と“カフェ”という大人っぽいシーンよりは、家族や子どもが訪れるシーンに合う番組で、様々なシーンに合うと思う。このように考えた結果として、ゆったりしないヒーリングはあるのだろうかというのが疑問として残った。

【放送局】
「ヒーリング」は皆さんが仰った通り、人それぞれで癒される音楽は違うだろうというのは理解しており、「J-25 ヒーリング CAFE」は番組名と選曲内容でギャップは生まれやすいだろう。「J-25 ヒーリング CAFE」の選曲自体を良いとすると、番組名がこの番組を初めて聴く人にとってネガティヴなギャップになるのであれば、番組名自体も考え直すべきだと感じた。
選曲内容は良い選曲だというご意見を頂いた一方で、「リラックス出来ない」や「日本人アーティストの楽曲が多く選曲されている」というご指摘も頂いた。ご指摘頂いた部分に関して、どのように選曲していくのかというのは試行錯誤したい。
今回の 2 番組は、発展途上の番組だ。お客様からの評価が高いからとそのままにせず、更に発展させたり、派生して新しい番組を作ったりしていきたいと考えている。頂戴したご意見を参考にブラッシュアップした結果は改めてご報告させて頂きたい。